

はせぐち 長谷口遺跡

所在地 瀬戸市長谷口町地内
調査理由 東海環状自動車道建設
調査期間 平成 14 年 7 月～9 月
調査面積 1,325 m²
担当者 藤岡幹根・宇佐見守・永井宏幸



調査地点 (1/2.5 万「猿投山」)

調査の経過 調査は東海環状自動車道建設の事前調査として、国土交通省愛知県国道工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成 12 年度に東地区 (00 A・B 区) を 1,200 m²実施し、今年度は西地区を 1,325 m²実施した。

立地と環境 長谷口遺跡は瀬戸市の東南部、矢田川の支流である赤津川流域に広がる赤津盆地を囲む東側の丘陵、赤津川に流れ込む木下川右岸の段丘上、標高 195～200 m に立地する。隣接する遺跡としては、今回の調査で確認された江戸末期から明治初期の屋敷地と関連性が指摘できる長谷口 B 窯跡が丘陵斜面にある。また、木下川を挟んで左岸には縄文時代早期後半と中世を中心とする八王子遺跡がある。

調査の概要 現況は 4 つの平坦地が段状を成し、00 A 区 (木下川沿いの低位面) が概ね下段から中段、00 B 区 (丘陵側の高位面) が上段に相当し、さらに一段高い平坦地が今年度認められた。したがって、調査直前までの耕作によって土地の改変が想定され、遺構は削平されていると思われた。

上面の遺構 ところが、表土を除去した後、これら 4 つの段状地形は江戸末期から明治初期の屋敷地に関わることが判明した。特に最上段面、すなわち山側に位置する平坦面には、柱穴列や土坑など屋敷に関わる遺構群が展開し、上段面との境に溝が 1 条確認できた。調査区北西に隣接する長谷口 B 窯に関連する窯道具 (匣鉢など) が出土した遺物に含まれることから、窯操作時に関わる施設であった可能性が高い。

上段面では中世後期を中心とする遺構群と平安時代の造り付けカマドをもつ竪穴住居 2 棟が検出された。平安時代の SB01 はプランの北西寄りと南東寄りの 2 ヶ所に集中して遺物が確認できた。

中～下段面は中世の遺構・遺物が散見するものの希薄で、00 A 区の延長上に位置する木下川の河道の一部と考えられる礫群が認められる程度であった。

下面の遺構 今回の調査で注目される成果として、これら中世以降の遺構群より下位に、縄文時代早期後半と中期末、弥生時代中期後葉から後期前半の遺構群があげられる。

弥生時代の遺構としては、竪穴住居 2 棟と板状鉄斧の出土した土坑 1 基がある。これらはすべて重複する遺構群で、SB07 (中期後葉) → SK120 → SB03 (後期前半) の順の切り合い関係が確認できた。問題は、SK120 に鉄斧以外に遺物が出土しなかった点である。鉄斧の形状などから弥生時代後期頃に比定できるが、希少な遺物だけにその年代観は今後の課題である。

縄文時代中期末の遺構は竪穴住居 2 棟と土坑数基がある。このうち SB06 は住居にめぐる壁溝の形状から五角形のプランが想定できる。中央に円形の炉を有し、5 本の支柱穴が配置さ

れている。また、住居が位置する上段面より一段上に相当する最上段に単独の埋甕 SK146 がある。正位に埋められ、底部を穿っている。

縄文時代早期後半の遺構は山に近い最上段面を中心に確認できた。遺構は最上段面の北西寄りが中世以降の削平で滅失している部分を除けば、ほとんど満遍なく認められた。ただし、住居に関連する柱穴などを特定するにはいたらず、人為的な掘削ではない窪地も含むと考えられるため、今後の検討を要する。00 B 区で検出した集石炉 SX01 と同様の遺構 SK169 は 00 B 区と同じ上段面に位置し、遺構が密集する最上段面からやや離れている。

ま と め 調査の成果としては、まず、縄文時代早期後半と中期末の遺構・遺物を確認したこと。そしてこれらが隣接する八王子遺跡の希薄となる時期を補うことから、2つの遺跡を通して早期後半から中期にいたる時期が通観できる好資料を得ることができた。さらに弥生時代の鉄斧は県下では希少な資料を得ることができた。最後に、長谷口 B 窯跡に関連する施設が確認できたことから、窯操業に関わるモデルの一例を得ることができた。

(永井宏幸)



江戸時代末～明治の建物（長谷口 B 窯跡関連施設？）



SB06 全景（縄文時代中期末）

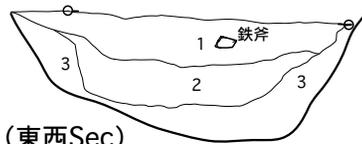
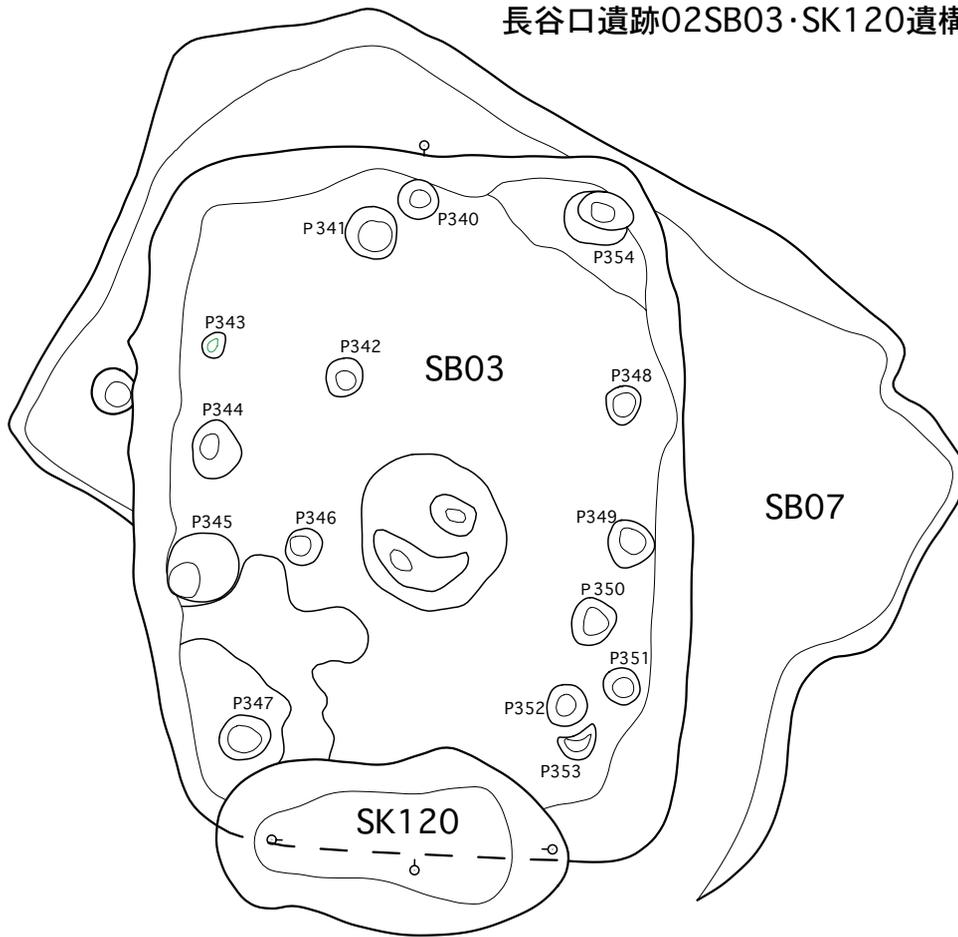


下面全景（縄文時代早期後半）



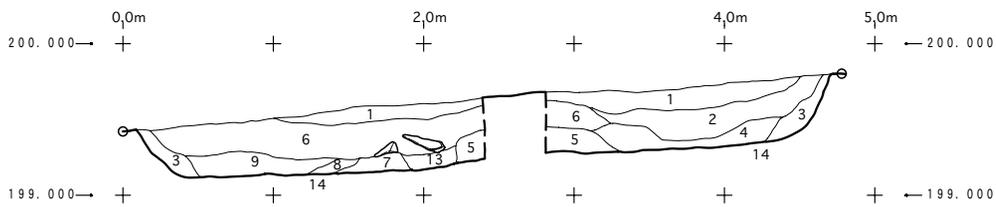
SK146 全景（縄文時代中期末）

長谷口遺跡02SB03・SK120遺構図 S=1



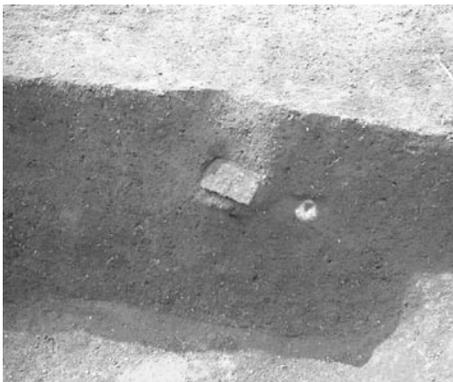
層位番号	土色記号	土色	備考
1	5YR4/2	灰褐色土	2~4mm大の砂礫混じる
2	2.5YR3/1	暗赤灰色土	"
3	10YR7/6	明黄褐色砂質土	"

SK120 断面図 (東西Sec)



SB03 断面図 (南北Sec)

層位番号	土色記号	土色	備考
1	5YR3/2	暗赤褐色土	5YR4/2灰褐色土、2~4mm大の砂礫混じる
2	"	"	5YR4/3にふい赤褐ブロック、"
3	7.5YR2/3	極赤褐色砂質土	2~4mm大の砂礫混じる
4	7.5YR2/2	黒褐色土	5YR4/3にふい赤褐ブロック、2~4mm大の砂礫混じる
5	2.5YR2/1	赤黒色土	"
6	5YR3/2	暗赤褐色土	7.5YR4/3褐色ブロック、2~4mm大の砂礫混じる
7	10YR5/2	灰黄褐色砂質土	10YR7/6明黄褐色砂質土
8	5と同じ	"	"
9	4と同じ	"	"
10	"	"	"
11	5YR2/2	黒褐色土	2~4mm大の砂礫混じる
12	3と同じ	"	"
13	4と同じ	"	"
14	10YR7/6	明黄褐色砂質土	2~4mm大の砂礫混じる



鉄斧出土状態